

テーマ：北方領土（実践校）

胆振管内 室蘭市立室蘭西中学校

■本実践のポイント（概要）

- ・郷土に対する愛着や誇りを育むため、各学年の社会科及び第2学年の総合的な学習の時間において、北方領土に対する理解を深め、日本固有の領土である北方領土に関する調べ学習等を行うとともに、「北方領土の語り部派遣事業」を活用し、領土問題への関心を高める取組を行いました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①取組の様子

(1) 課題の設定

社会科で学習した北方領土の位置関係及び歴史的背景を基に、公益社団法人千島歯舞諸島居住者連盟の語り部（以下、語り部）による講話を聞き、北方領土に対する興味・関心を喚起するとともに、領土問題について自分の考えをもつための課題を設定しました。

(2) 情報の収集

語り部による講話を聞き、北方領土の自然、環境、領土問題の歴史的背景、占領時の樺太強制送還時の具体的な内容について情報を収集することができました。

(3) 整理・分析

既習事項及び講話で得た情報を整理する際、インターネットや北方領土復帰期成同盟が作成した「私たちの北方領土」を用いて、領土問題についての考えをさらに深めました。

(4) まとめ・表現

北方領土について、自分の考えや感想をまとめるとともに、さらに知りたいことについて、グループで協働して調べ、学ぶことができました。また、領土問題に関して、自分の考えが講話の前後でどのように変容したのかをワークシートにまとめました。



【語り部による講話の様子】

②生徒の感想等

- ・語り部による講話を聞き、北方領土をより身近に感じ、道民の一人として重く受け止め考えていきたい。
- ・今回の学習を通して、領土問題についてもっと理解し、自分にできることをしていきたい。
- ・学習する前はあまり関心がなかったけれど、講話を聞き、もっと故郷に誇りをもとうと思った。
- ・北方領土との行き来が自由になることを願うとともに、交流の継続が返還への道だと思う。

■取組の成果（○）と課題（●）

- 北方領土学習に関するアンケートで「北方領土の自然や歴史、領土の返還についてもっと調べたい」と肯定的に回答した生徒の割合が57.6%から62.7%に増加し、遠い地域のことと捉えていた生徒も、講話により身近なこととして考え、興味・関心が高まりました。
- 事後学習のまとめでは、「道民の一人として考えないといけない」、「誇りをもって行動する」、「平和的な解決を願う」等、自分事として捉えたり、現在の世界情勢に目を向けたりする考えも見られ、郷土に対する愛着や誇りを育むことができました。
- 北海道ふるさと教育指導プログラムを参考に計画しましたが、継続的な学習を行うために、自校のふるさと学習の内容との関連を踏まえた年間指導計画を整備するとともに、返還運動関係者の講話や、実際の映像資料の活用など、学習活動を工夫する必要があります。